

雑 報

553.462 : 550.85 (521.14)

秋 田 県 彌 生 鉬 山 調 査 報 告

本鉬山は秋田県由利郡笹子村にあり、奥羽本線院内駅の西方直距離約8km 彌生沢に位置する。

地質は第三紀中新世中部にあたる緑色凝灰岩とこれを貫ぬく石英粗面岩とからなり、また地域東縁には角閃石英安山岩が分布する。

鉬床は緑色凝灰岩および石英粗面岩中に胚胎する裂隙充填鉬床で、主要な鉬脈は2条である。

第1号鉬は石英粗面岩中に胚胎する走向 N 70°W, 傾斜 60°S の鉬脈で、立入坑で着脈し、東西に約 100 m 鉬押されている。

ほとんど採掘跡で、鉬幅は 20~30 cm であるが、西押引立では 5 cm にせばまり劣勢となつている (銅品位 4~5%)。

第2号鉬は凝灰岩中の鉬脈で、走向 N 60~80°E, 傾

斜 70~80°N を示す。

坑道は1番坑から3番坑まであり、1番坑から3番坑までの間隔は71m である。3番坑は崩壊して入坑できないが、2番坑では東西に約 270 m 鉬押している。

鉬幅は 30~120 cm を示すが、上盤際 10~40 cm が良好で、この部分の銅品位は 7~9% を示す。

鉬石は黄銅鉬・黄鉄鉬を主とし、脈石として石英を伴なう。

現況は従業員7名で操業し、昭和26年から昭和29年10月までに約 500 t (Cu 5~6%) の鉬石を産出し、小坂鉬業所に送鉬している。

今後の探鉬は第2号鉬の下部および鉬押探鉬が最も必要で、特に2番坑地並西押引立断層先の探鉬が必要である。(調査: 奥海 靖 抄録: 高島)

553.462 : 550.85 (521.82)

島 根 県 大 東 鉬 山 の モ リ ブ テ ン 鉬 床 の 概 要

大東鉬山は島根県大原郡大東町字東阿用に位置する。調査当時の稼行鉬床は1条の含モリブデン鉬石英脈で、おもむね走向 N 35~40°E, 傾斜平均 17°NW を示し、塩基性混成岩・黒雲母花崗岩および黒雲母半花崗岩を貫ぬき、煌斑岩および閃緑玢岩の岩脈によつて貫ぬかれる。

モリブデン鉬は微細な結晶にして、縞状に配列する場合が多く、しばしば磁鉄鉬および黄銅鉬を伴ない、全般的に黄鉄鉬の生成が目立っている。

すなわち採掘部の平均品位は MoS₂ 約 3.5%, 坑道加脊に対して MoS₂ 0.5~0.6% を示しており、葉片状のモリブデン鉬が密集することがきわめて多く、薄板状

の富鉬部は随所において MoS₂ 10~13% の品位を示す。

坑内掘によつて確かめられた石英脈の規模は走向延長約 350 m, 傾斜延長約 100 m, 脈幅 10~50 cm である。膨縮は比較的少なく、末端部は走向が乱れ、石英が減少し、脈が分岐し、さらに数条の細脈となつて尖滅する。

手選精鉬は特上, MoS₂ 18~25%, 上鉬 MoS₂ 7~10%, 普鉬 MoS₂ 4~6%, 普下 MoS₂ 3% 土である。特上および上鉬は全出鉬量の数% に止まり、開発が進んだ調査当時でも MoS₂ 1.5~2% 程度の鉬石も浮選にかけられていた。(調査: 上野三義・土井啓司 抄録: 宮本)

553.31 : 550.85 (521.85)

山 口 県 豊 神 鉬 山 鉄 鉬 鉬 床 調 査 報 告

昭和29年9月6日から6日間にわたり山口県豊浦郡豊田下村高山の豊神鉬山の鉄鉬床を調査した。鉬床は古生層中の珪岩の下盤の圧碎帯中に生成された交代鉬床で不規則塊状ないし網状の形態をとり、厚さ数 cm から数 10 cm の扁平な小鉬塊からなり、連続性に乏しい。露頭は丘および東長野の2カ所に認められた。各露頭附近の概況は右表に示される通りである。

おもな鉬石鉬物は磁鉄鉬で、一部赤鉄鉬となる。調査

場 所	走 向	傾 斜	Fe 品位 (%)
丘 東 長 野	N30~50°W	30~40°N	52 ~ 57
	N20°W	50°N	53

当時までに稼行されたのは露天掘可能な部分のみである。露頭の賦存状況からチャート層の下盤に沿つて鉬床の存在が予想される。今後の開発には物理探鉬および坑内探鉬を必要とする。(調査: 土井啓司, 抄録: 宮本)